

# 国立大学法人兵庫教育大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上に対する社会的要請に応えるため、学校教育を中心とした理論的、実践的な教育・研究を進めるとともに、教育諸課題に対応する教員の力量形成を支援し、我が国の教育の発展に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、実践的指導力を持った教員の養成と、資質・力量を備えた専門職業人たる優れた現職教員の育成とともに、教育実践学の高度な研究・指導能力を持った人材の輩出等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、兵庫教育大学ミッションを策定し、教員養成スタンダードに基づく教員養成教育の質を保証するための取組を行うなど「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

なお、中央教育審議会答申を踏まえた教員養成の修士レベル化に対応するため、新しい教員養成のモデルカリキュラムの開発等の検討を行っている。このように、第2期中期目標期間において、これからの時代に求められる教員としての資質能力の向上を図るため、大学院カリキュラムの検証・充実や教育内容の改善を行い、教師教育スタンダードを構築することを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 予算策定に当たり、あらかじめ各課から「各課配分予算による事業の実施状況及び成果等報告書」を提出させ、ヒアリングにおいて緊急性や必要性を確認し、無駄の洗い出しや優先順位付けを行う事業見直し（事業仕分け）を行った結果、予算等の削減だけでなく、業務量の減少にもつながっている。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、)

〔③資産の運用管理の改善〕

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 作成支援補助者の雇用、申請書テンプレートの作成・配付などの措置により平成 23 年度の科学研究費等の競争的外部研究資金申請件数は、177 件（対前年度比 66 件増）となっている。
- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6%以上の削減が図られている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

〔 ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進 〕

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

**（4）その他業務運営に関する重要目標**

〔 ①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守 〕

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員養成の質を保証するため、「CanPass ノート（e ポートフォリオシステム）」の運用開始や教員養成スタンダードの各項目と学部の各授業科目で培う資質能力との関連性を明確に示すための「カリキュラムマップ」の作成を行っている。

- 「就職支援対策推進本部」を設置し、入学当初からキャリア形成を支援するための取組を推進している。また、教職大学院学生については、教員採用試験サポートの充実等、学生個々に応じたきめ細やかな指導を行った結果、教員就職率 97.5%を達成している。
- 2府4県3市の教育委員会関係者を委員とする教師教育プログラム推進協議会（広域教育委員会等部会）と兵庫県内の教育委員会関係者等を委員とする同協議会（県内教育委員会等部会）を発足させ、大学の取組について紹介するほか、広く教育界の意見・要望を取り入れるなどの取組を行っている。
- 優れた資質や能力を有する者が、学校教育研究科に入学するに当たり、経済的負担を心配することなく学生生活を送ってもらうため、返済の義務を課さない嬉望奨学金を新設している。
- 学生の自発的な活動や討論を行う場所を作るためラーニング・コモンズ化を進めており、その一環として屋外ゼミ（アカデミック・カフェ）スペースを整備し、ゼミ等で利用している。

（教員就職状況）

- 平成 23 年 3 月卒業者（教員養成課程）の就職状況は卒業者 166 名に対し、正規採用が 70 名、臨時的任用が 54 名で、平成 23 年教員就職率は 74.7 %、進学者等を除くと 86.7 %となっている。

### Ⅲ. 東日本大震災への対応

- 震災に関する学生ボランティア活動を大学事業として推進するため、ボランティア活動を支援する体制を構築している。
- 学生を被災地に派遣し、厳しい学習生活環境に置かれている児童・生徒の学習支援を行っている。
- 臨床心理士チームを定期的に派遣し、現地の専門家との連携により被災者の心のケアに当たるなどの支援活動をしている。